

# 動物由来感染症の種類Ⅱ

## レプトスピラ症

### 病気の特徴(症状)

5~14日の潜伏期の後に、38~40℃の発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、結膜充血などの初期症状で発病する。重症の場合は、発病後5~8日目に黄疸、出血、腎機能障害などの症状が認められる。

### 感染経路・感染状況

保菌動物(ネズミなど)の尿中に菌が排出され、感染動物の尿に触れたり尿に汚染された水や土などから経皮的または経口的に感染する。全国で散発的に発生しているが、地域によって集団発生も報告されている。

### 予 防

- ネズミの駆除などのレプトスピラ保菌動物への対策や衛生環境の改善。
- 感染の可能性のある動物と接触する場合は手袋やゴーグルなどを着用。



## ウエストナイル熱

### 病気の特徴(症状)

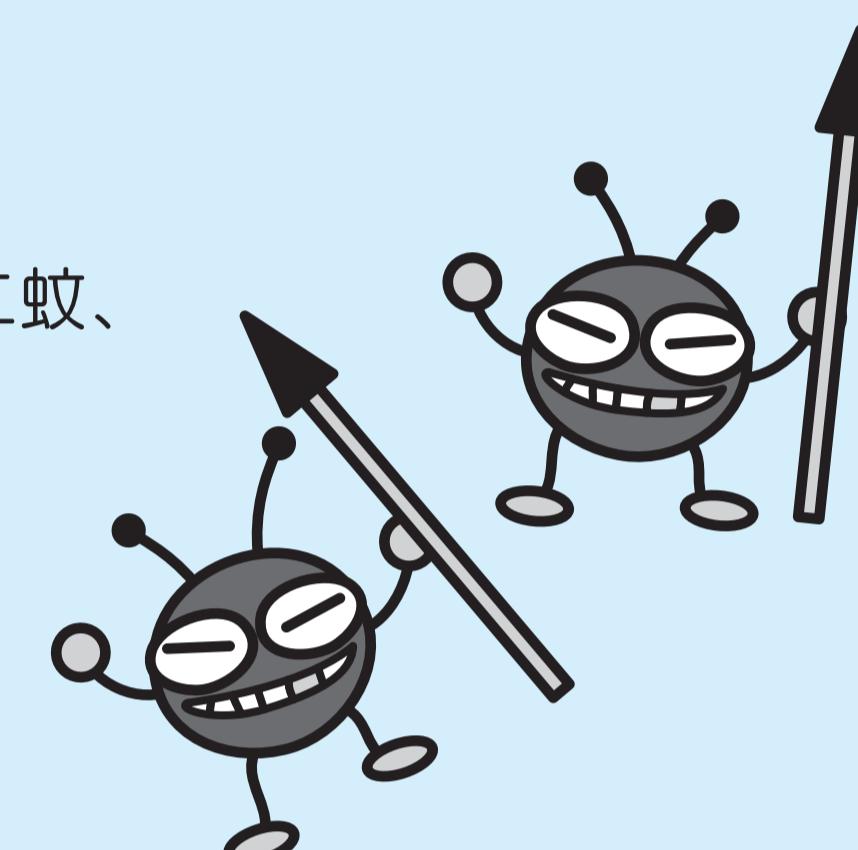
突然の発熱(39度以上)、頭痛、筋肉痛、時に消化器症状、発疹。通常、1週間以内に回復するが、その後倦怠感が残ることも多い。感染者の約1%未満が、重篤な症状として脳炎、髄膜炎、麻痺、昏睡などを示す。感染者の約80%は不顕性感染。

### 感染経路・感染状況

ウエストナイルウイルスは鳥と蚊の感染サイクルで維持され、感染蚊に刺されることにより感染する。媒介蚊はイエ蚊、ヤブ蚊等である。人から人への感染はない。日本では米国で感染し、帰国した人が国内で発症した事例がある。

### 予 防

流行地域では蚊除け剤の使用や、長袖・長ズボンを着用して素肌を露出させないなど、蚊に刺されないようにする。



## オウム病

### 病気の特徴(症状)

突然の発熱(38度以上)で発症、せきが必ず出て、たんを伴う。

全身けん怠感・食欲不振・筋肉痛・関節痛・頭痛などのインフルエンザのような症状。重症になると呼吸困難・意識障害などを起こし、診断が遅れると死亡する場合もある。

### 感染経路・感染状況

インコ、オウム、ハト等の糞に含まれる菌を吸い込んだり、口移しでエサを与えることによっても感染する。2001年、我が国の動物展示施設で従業員の集団感染があった。

### 予 防

- 鳥を飼うときは、羽や糞が残らないよう常に清潔にする。
- 鳥の世話をした後は、手洗い、うがいをする。
- 口移しでエサを与えないなど、節度ある接し方が大切。
- 鳥を飼っている人が重いかぜの症状を感じたら、オウム病を疑って受診し、鳥を飼っていることを医師に伝える。
- 信頼のおけるペットショップで健康な鳥を購入する。



## パスマレラ症

### 病気の特徴(症状)

通常は咬まれたりした場所が赤くはれたりするだけの軽症であるが、まれに蜂窩織炎や、傷が深い場合には骨髓炎になったりすることもある。

### 感染経路・感染状況

イヌやネコの口の中にふつうに見られる細菌で、厚生労働省の調査では、イヌの75%、ネコの97%の口の中、またネコのつめの20%に菌が見られる。人がかかる場合の約半数はイヌ、ネコの咬み傷、かき傷による。最近の調査によれば、鼻や口などからの呼吸器感染も報告されている。

### 予 防

- イヌやネコに咬まれたり、ひつかかれたりしないように注意し、傷を受けた場合は、流水でよく洗う。



## サルモネラ症

### 病気の特徴(症状)

感染した人の多くが胃腸炎症状を呈するが、無症状のこともある。

まれに菌血症、敗血症、髄膜炎などの重症となり、ひどい場合には死亡することもある。

### 感染経路・感染状況

通常サルモネラ症は汚染された食品を介して感染するが、爬虫類などの動物との接触をつうじて感染することもある。国内外の文献によると、カメなどの爬虫類の50から90%が菌を保有している。日本でも子供がペットのミドリガメから感染し重症となった事例がある。

### 予 防

- 飼育環境を清潔に保ち、世話をした後には石けん等を使って十分に手を洗う。
- 乳幼児のいる家庭での爬虫類の飼育は控える。
- 飼育水を交換する場合は、排水により周囲が汚染されないように注意する。
- 免疫機能の低い人(新生児や乳児、お年寄りなど)がいる家では飼育を避ける。

